

平成26年度『黄門さまのふるさと水戸・茨城総会』を終えて

日立支部長 酒井邦造 (電50)
鹿島支部長 五十嵐信夫 (化46)

平成26年7月19日(土)、「ホテル テラス ザ ガーデン水戸」において平成26年度『黄門さまのふるさと水戸・茨城総会』を開催しました。前年が『工学部創立90周年記念の新潟総会』であること、さらに知名度の低い茨城県での開催のハンディを憂慮し、2年前より推進委員会を組織し多くの皆様に茨城に訪れていただき大いに楽しんでいただけた様、『産業大県いばらき』と『水戸徳川家の歴史探訪』をテーマに、クラス会や近隣支部への呼びかけを推進しました。お陰様で当初予定を遥かに超える200余名の皆様にご参加いただき感謝の念に堪えません。あらためて厚く御礼を申し上げます。

【講演会】

総会に先立ちJ-PARCセンター理学博士 坂元眞一氏に『J-PARCの最先端研究 “素粒子で探る極微の世界”』と題し、世界に誇る大強度陽子加速器の原理と活用研究の動向について講演いただきました。加速陽子を物質に衝突させて得られたニュートリノや中性子を用いて宇宙誕生の謎解明や今まで出来なかった新材料や新薬開発の最前線について、具体的な事例を基に紹介いただきました。講演後の質問では悠久会の2名の専門家から中性子を用いた高レベル放射性廃棄物の短寿命化研究と中性子の新薬応用への質問があり、産業界の関心の深さをも感じさせました。ご講演は素粒子研究のスケールの大きさと今後の人類への大いなる貢献を示唆する素晴らしい内容でした。

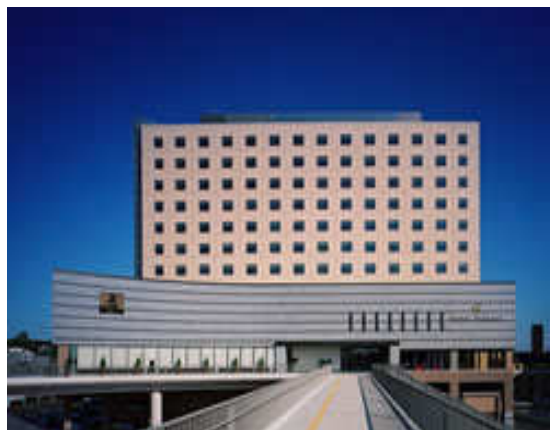
【全国理事会・総会】

全国理事会・全国総会は、平成25年度の事業報告・決算報告と会計監査報告、平成26年度の計画と予算案が審議されました。工学部予算が削減される中、学生活動を支援する工学部援助金の設定や100周年記念事業の推進について活発な討議が行われました。

【懇親会】

懇親会は歓迎セレモニーである『茨城を代表する磯節甚句』から“厳かなスタート”を心掛けて乾杯前に計画しました。これに気を良くした磯節保存会の皆様が予定を大幅に超過しての演舞となり、会員の皆様には早く喉を潤したいと思われたことと推察します。ご容赦ください。

開催支部長挨拶として酒井邦造日立支部長(電50卒)より、東日本大震災時の日本全国からのご支援に対するお礼と茨城総会に関する日立支部・鹿島支部の開催秘話にまつわる挨拶を頂きました。その後、本合邦彦同窓会理事長(機43卒)のあいさつの後、田邊裕治新潟大学工学部長(院機56卒)の乾杯のご発声で開会となりました。



会場には新潟・茨城の銘酒他を準備し、ご歓談いただき、各テーブルではクラス会の前哨戦で大いに盛り上がっておりました。メインイベントとしてハワイアンフラ団体『フラ ハラウ ピカケテルヌマ』による、本場ハワイ仕込みの美しく優雅なフラダンスを披露いただきました。『兎に角、若い踊り子を集めて下さい』と懇願した甲斐もあり、優雅でゴージャスなフラダンス披露となりました。当初は各テーブルの間で踊ってもらい、会員の皆様に身近でハワイを感じて頂く予定でしたが会場が満杯で叶わなかったことが心残りです。

懇親会後半では、来年の『おこしやす 二条のお城総会』に向けて、京滋支部の佐藤支部長はじめとする京滋支部の皆様によるプレゼンテーションを頂きました。日本有数の観光地である京滋支部さま主催の総会に期待が高まりました。

懇親会終盤は恒例の役員の皆様によるお歌の披露となりました。「新潟ブルース」「四季の新潟」など、お馴染みのメロディーで酔いしれました。

まだまだ「呑み足りない」「話し足りない」状況ではありましたが、時間が迫ってまいりました。懇親会の締めは五十嵐信夫鹿島支部長(化46卒)による万歳三唱で名残惜しい中、「続きは二次会で」ということで閉会となりました。

【二次会・クラス会】

「数十年ぶりの同窓会参加者」と「懇親会だけでは呑み足りない猛者」が入り乱れての二次会・クラス会は大盛り上がりとなり、団塊の世代・クラス会・若年世代のカラオケバトルとなりました。カラオケのリクエストはあつという間に満杯となりました。歌えなかった方、あまりの盛り上がりにお話しが聞き取りにくかった皆様、

ご容赦ください。

このあと、機53クラス会
会は三次会、電45クラス

会は四次会まで行かれたとのこと。水戸での宴はいつまでも続きました。



【観光】

大盛況の総会から一夜明けて、20（日）には46名参加で1日バス観光旅行を開催しました。当日はこの時季としては暑すぎず穏やかな天候に恵われました。『産業大県いばらき』と『水戸徳川家の歴史探訪』にちなみ、『J-PARC—徳川ミュージアム—偕楽園—好文亭—弘道館』を巡りました。

東海村のJ-PARCでは物質生命科学実験施設（MLF）を中心に、前日の講演に引き続いて坂元氏自らご案内いただきました。参加者の熱心な質問にも丁寧に説明いただき、終始工学部同窓生の好奇心を刺激する内容でした。

水戸市内に戻り、徳川ミュージアムでは有名な印籠の他、歴代藩主ゆかりの展示品を見学しました。偕楽園、旧藩校弘道館では観光ボランティアの方のガイドのもと、江戸時代から幕末にかけて、水戸藩が果たしてきた役割や伝統に思いを馳せました。道中思いがけず、売り出し中のゆるキャラ『みとちゃん』と水戸の梅大使の歓迎を受けたことは幸運でした。本当に短い時間ではありましたが、この観光が茨城の魅力を知っていただく一助となっていれば幸いです。

今回ご紹介できなかった地域以外にも見所は県内随所にございますので、皆様ぜひまた茨城へお越しになってください。

【終わりに】

新潟大学の同窓生が若いも若きも一堂に会するさまは非常に勇ましく、「日本の未来はまだまだ明るい」と勇気づけられる全国総会でありました。平成26年度『黄門さまのふるさと水戸・茨城総会』を大盛況に導いていただいた悠久会本部はじめ各支部の皆様のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

なお、本誌で紹介しきれなかった写真は「悠久会ホームページ」に掲載予定です。
<http://www.yukyukai.gr.jp/> または WEBにて「悠久会」検索をクリックしてください。

「トップ→悠久会の広場→悠久会だより→活動報告→全国総会報告」



J-PARC 実験施設にて



ゆるキャラ『みとちゃん』と



偕楽園・好文亭をバックに